

ボランティア体験記 ～福祉現場から見えてくるもの～

どこの場所でもよく言われている事ですが、「気に入らない」「うまがあわない」「怖い」などと感じる人は必ずひとりはいることでしょう。

かくいう私もボランティアをしていて、苦手なスタッフさんがいます。男性でにこりともしないので正直怖い・・・というのが本音です。

なので、お願いがある場合は、話しかけやすいスタッフさんに頼んでいます。

あるとき、交通費をもらわなくてはいけないので、いつものように、お願いして休憩をしていました。丁度、利用者さんを正面とすれば、背を向けて椅子にすわっていました。そして、だしていただいた飲み物をくつろいで、飲んでいました。

すると、突如後ろからぬっと手が伸びて、テーブルにお金と領収書が置かれたのです。さらに無言だったので、本当に私はびっくりしました。振り返ると苦手なスタッフさんで、無言で去ってゆく姿が見えました。

認知症で症状が進むと、

「周囲が知らない人だらけで分からず怖い、自分がどこで何をどうしているのかもわからず、恐怖に駆られ、ときに混乱する」

こういった症状が現れることがわかっています。

私は、形は違いますが、その症状がひきおこす「恐怖と混乱」の気持ちを追体験した気分でした。

「認知できない状況で、突然アクションをおこされる」と、本当にびっくりするし怖いものだという事です。

よくあることですが、なかなか着替えをしてもらえない方や、入浴を拒まれる方など現場には「てこずる方」がおられるとおもいます。

しかしその方は、重度の認知症かもしれません。

「周囲の状況がわからず、知らない人に、突然強要される」環境におかれたら、(認知症ではなくても)びっくりして混乱するのが、ある意味、当たり前感覚ではないでしょうか。

昔、母が入院してつきそっていた時、ヘルパーで、「お風呂、用意して」これだけ母に告げて忙しそうに去っていた人がいました。

ちょっとなあ～と思って母をみると「あの人はもともと荒い人やけん、気にしとつてもしょうがない」

母は笑って気にしていないようでしたが、私は正直戸惑ったものです。

これが認知症の人だとどうでしょう？

「お風呂行きますね～用意しますよ～」と突然言われて、流れ作業で車いすに抱きかかえられて風呂場の近くに車いすをとめられる。

「これは今から何をしようとしているの？なんだか落ち着かない、怖い！やめて！さっきまで寝ていたのに！」

こう訴えたくとも、言葉もでずに混乱する・・・おそらくこのような心象風景ではないでしょうか。

病院や施設では、流れ作業的なものは当たり前ですが、スタッフが心に余裕を持っていないと「今から安心して入

浴してもらったための心遣い」が希薄になり結果としてときに「抵抗」を相手からうけることに繋がっているのかもしれない、ということの、自覚が心の根本にあるかを、検証してみることも大切だと感じます。